

はじめに——経営者の役割、望ましい社会の実現

二〇五〇年の未来。あなたは考えたことがあるだろうか。

企業も個人も、グローバルの競争の波に翻弄され、現下の世界不況に身をすくめている。一年後、二年後もまったく見えないという状況のなか、自分を見失わずに将来展望をもって働き、生きていくにはどうすればよいのだろうか。

本書『未来を創る経営者』は、グローバル市場で切磋琢磨している経営者二十名の方に、経営トップとしての仕事観や経営観、将来のビジョン（展望）についてなど、思うままに執筆いただいたものである。

その切り口や視点、問題意識の重点はさまざまであるが、深く多彩な経験に裏打ちされた言葉には、多くの真実やヒントが潜んでいる。読者がそれぞれに触発されたり、全体を通して読んでみて何らかの共通項を漠然とでも感じ取っていただけたら、というのが編著者の狙いである。また、各人の人生における転機となったような出来事、試練のような経験についてもお話しただいているので、興味深く読んでいただけると思う。

本書の発端は、国際経営者協会 (International Management Association、以下、I M A) で

行った「二〇五〇年未来を考える」という委員会の活動である。これは、「企業経営者の役割

は、かつてないほど増大している」「一企業の行動が国や世界に影響を与える現実がある」という認識から活動をスタートさせたものである。

われわれが五十年先にインパクトを与える行動は何かができるだろうか。詳しくは、あとがきや別途編纂された報告書などをご覧いただきたいが、これは一企業の経営方針にとどまらず、できる範囲で社会の変革に貢献しよう、より望ましい社会を目指そう、という前向きなイニシアチブである。

また母体となっているIMAは、グローバル市場でビジネスをする経営者の団体である。「われわれはこうやる」「この指とまれ」の方式で、実践的な経営者、リーダーたちが集まっている。

今、会社の経営者に求められている役割は何だろうか。グローバルな競争のなかで会社を経営してきたリーダーたちは、どんな体験をし、何を考えているのか。そうした経験や経営観から、どのような問題意識を持っているのか――。

本書でさまざまな展開される経営者の話は、きれいにまとまっているものではない。だが、現実の経営もそうであろう。何かしら、不確かながらも、経営者は未来を創っていかなければならない。

本書には、未来を考え、展望するうえで、さまざまな視点が含まれている。経営者の方はも

ちろんのこと、経営者を目指される方、またそれぞれの立場でリーダー的な立場におられる多くの方に、ぜひともお読みいただきたい。

なお本書の取りまとめは、岩崎哲夫（元・国際経営者協会代表理事、株式会社ジーピーアイ代表取締役会長）、加藤春一（元・国際経営者協会理事、五十年未来委員会委員長、テスコ・ブレミアムサーチ株式会社社長）、野澤信一（国際経営者協会事務局長）、深谷健一郎（生産性出版）が行った。

本書が、いま日本で生きる一人ひとりにとって、何らかの行動の指針、きっかけ、励ましの書となれば幸いです。

二〇〇九年四月吉日

国際経営者協会